

平成26年度病害虫発生予報第9号(12月予報)

- <今月のコラム> ・マンゴーにおける炭疽病の防除対策について ・かぼちゃ細菌性病害の防除対策について
・防鳥ネット設置によるレタスのシロガシラ被害対策 ・シベリア高気圧と季節風
- <お知らせ> イネヨトウの性フェロモントラップへの誘殺数の推移について以下URLに掲載しています。
<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/documents/ineyo-phero.html>

今月のトピックス

ワタアブラムシ (マンゴー) 学名 : *Aphis gossypii*



すす病による被害



葉裏の寄生状況



有翅虫と無翅虫



ニホンアブラバチの寄生によるマミー

生態と被害

マンゴーの新葉裏や花穂、果実に寄生する。甘露と呼ばれる蜜を排泄することですす病(糸状菌)を生じさせ、光合成を阻害する。成虫には無翅虫と有翅虫が存在し、無翅雌虫の体サイズは1.5mm内外。体色は黄色、橙黄色、緑色、深緑色、黒色まで変化がある。腹部後端に位置する角状管は黒褐色から黒色、尾片は腹色と同色である。世界各地に分布し、アブラムシ群の中でも最も代表的な害虫である。きわめて多種の植物に寄生するが、特にウリ類、ナス類、ワタ、ムクゲなどを好む。本県では周年発生する。天敵として捕食性のナナホシテントウ、ホソヒラタアブ、クサカゲロウ、寄生蜂のアブラバチなどが知られている。寄生蜂が寄生するとマミーと呼ばれる外皮を利用した蛹が観察される。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>